

平成 22 年 5 月 1 日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19520258

研究課題名(和文) トマス・フッカーとコネチカット植民地に関する研究

研究課題名(英文) Thomas Hooker and Connecticut

研究代表者

小倉 いずみ (OGURA IZUMI)

大東文化大学・法学部・教授

研究者番号：00185563

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学・英米文学

キーワード：ハートフォード、コネチカット基本法、セイブルック、勅許状、ジョン・コットン、国際研究者交流、国際情報交換、アメリカ合衆国

## 1. 研究計画の概要

本研究には二つの目的がある。第一にコネチカット植民地がいかに創設されたかを歴史的に解明することであり、第二にトマス・フッカーの生涯と思想を分析することである。コネチカット渓谷は隣接するオランダ領ニュー・アムステルダムとの競争があり、マサチューセッツ湾植民地やプリマス植民地、ロード・アイランド植民地には含まれていた。植民地創設者のフッカーは英国、オランダ、ボストン、ハートフォードと次々に移動したが、移動した土地それぞれで思想的リーダーとなった。柔軟性あふれる思考と精神的な強靱さを持つフッカーは、宗教者として正統派の会衆主義の教義を確立し、時にはその思想を変貌させつつ、新しいコネチカット植民地を創設した。本研究は政治家・思想家・宗教者としてのフッカーを、多面的な視点から解明する。また本研究の成果としてフッカーの伝記を出版する。

## 2. 研究の進捗状況

本研究は、アメリカ合衆国コネチカット州ハートフォードの創設の歴史的意義とトマス・フッカーの思想を分析することを目的としている。ニューイングランド評議会の勅許状(チャーター)のもとで、ウォリック伯爵に与えられた勅許状(パテント)を調査し、植民地事業の開発許可書を分析した。またオランダのニュー・アムステルダムとの勢力争いを検討しつつ、セイブルック砦の建設とハートフォードの創設の経緯について資料収集を行った。文献としては、コネチカット基

本法、ハートフォード説教、『教会規律の概要』、会衆主義の思想を総括したケンブリッジ綱領を扱った。また本研究は、同時にアメリカ合衆国のハーバード大学神学部教授のデヴィッド・ホールとの共同研究でもある。小倉や研究分担者は、コネチカット植民地の歴史の解明を行い、ホール先生の東京での講演会を開催した。以下はホール先生が2009年1月8日から1月21日まで東京で行った4回の講演の題目である。(英語、通訳なし)

1月10日 初期アメリカ学会「トマス・フッカーとコネチカット植民地」

1月13日 東京大学アジア太平洋研究センター「アメリカの宗教と公共政策」

1月14日 学習院大学文学部「キャサリン・マリア・セジウィックと文学」

1月15日 上智大学文学部「キャサリン・マリア・セジウィックと文学」

すべての講演は、多くの聴衆を集め、活発な質疑応答が英語で行われた。また小倉は毎年夏休みにハーバード大学で研究しており、ホール先生と研究の打ち合わせをしている。

## 3. 現在までの達成度

① 当初の計画以上に進展している。

(理由) 本研究は4年間で完了するが、コネチカット植民地の創設に関しての研究はほぼ終了した。マサチューセッツ湾植民地から移住してコネチカット植民地を創設するまでの歴史、先住民とのピーコット戦争(1637)、ニュー・アムステルダムに居住するオランダ人との領土獲得競争、セイブルック砦の建設、

ウォリック・パテントの内容、マサチューセッツ湾植民地のケンブリッジにおける生活など、フッカーの周辺に関する分析は完成に近い。現在、フッカーの生涯最後の大作『教会規律の概要』の宗教思想を分析している。ピーコット戦争の論文については、依藤道夫編著『アメリカ文学と戦争』（成美堂、2010年）に収録され、出版された。

#### 4. 今後の研究の推進方策

最終年度である22年度はトマス・フッカーの生涯に焦点を置き、伝記の概要を作成する。伝記を執筆する際は、フッカーの著作を中心として、『教会規律の概要』や説教の原稿を分析しながら、英国やオランダでの生活やハートフォードでの政治家との関係を描きたい。ハートフォードの周辺のウィンザーやウェザーズフィールドなどのタウンの創設についても、最新の研究書を分析したい。またホール先生については、2010年9月に再び来日し、講演会を開催する予定である。東京では本研究を含めて4回の講演、仙台の東北大学ではグローバルCOEでの講演を行う。

#### 5. 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕（計 8件）

- ①小倉いずみ「コネチカット植民地の創設とトマス・フッカー」科学研究費基盤研究(B)による研究成果報告書『アメリカ合衆国憲法と政教分離に関する研究』、1-67頁。2009年（査読無）
- ②小倉いずみ「トマス・フッカーとコネチカット植民地の創設」『詩と散文』第83号（永田書房）、48-62頁。2009年（査読無）
- ③小倉いずみ「アメリカ植民地時代の文献について」『詩と散文』第83号（永田書房）、44-47頁。2009年（査読無）
- ④小倉いずみ「ラルフ・ワルド・エマソンと奴隷解放運動」科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書『ジョン・ブラウンの屍を越えて—南北戦争とその時代』、15-37頁、および「エマソンと黒人奴隷制に関する年表」77-83頁。2008年（査読無）
- ⑤林以知郎「祝祭と憑在—建国期アメリカ文化と異人たちの帰還」『北海道アメリカ文学』2008年（査読有）
- ⑥竹内美佳子「ラルフ・エリスンのジャズ論」『慶應義塾大学日吉紀要 言語・文化・コミュニケーション』第40号、229-243頁。2008年（査読無）
- ⑦小倉いずみ「英国領北アメリカ植民地の創設と勅許状」『大東文化大学紀要』第45号（大東文化大学）、175-192頁。2007年（査読無）
- ⑧小倉いずみ「アメリカ先住民とピーコット戦争」科学研究費補助金基盤研究(C)による研究成果報告書『メルヴィルの小説にみる先住民表象の虚構と事実』、81-120頁。2007年（査

読無）

〔学会発表〕（計 7件）

- ①小倉いずみ「ハートフォードの創設とトマス・フッカー」第55回九州アメリカ文学学会大会、2009年5月9日、琉球大学
- ②竹内美佳子「見えない存在の音楽 —Ralph EllisonのJuneteenth」第48回アメリカ文学学会全国大会、2009年10月10日、秋田大学
- ③白川恵子「遺産相続の物語—George Lippardの都市犯罪ミステリ *The Empire City* (1849) と *New York: Its Upper Ten and Lower Million* (1853)」関西アメリカ文学学会例会、2009年7月11日、京都外国語大学
- ④林以知郎「祝祭と憑在—建国期アメリカ文化と異人たちの帰還」日本アメリカ文学学会北海道支部、2008年12月、北星学園大学
- ⑤白川恵子「メイソン・ロック・ウィームズの『ワシントン伝』再考」日本英文学会第80回全国大会、2008年5月、広島大学
- ⑥小倉いずみ「奴隷解放運動における思想家Emersonの立場」日本アメリカ文学学会第46回全国大会、2007年10月13日、広島経済大学
- ⑦小倉いずみ「エマソンと黒人奴隷制」第53回九州アメリカ文学学会大会シンポジウム「ジョン・ブラウンの屍を越えて—南北戦争とその時代」2007年5月12日、九州大学

〔図書〕（計 5件）

- ①小倉いずみ『アメリカ文学と戦争』成美堂。第1章「植民地戦争とアメリカ文学」及び第2章「アンダーヒルと『アメリカからのニュース』」を担当、7-47頁。2010年
- ②白川恵子『独立の時代—アメリカ古典文学は語る』世界思想社。「売れる偉勲、憂うる遺訓—ウィームズの『ワシントン伝』再考」を執筆、29-58頁。2009年
- ③白川恵子共訳、松本昇、清水菜穂監訳、ヘンリー・ルイス・ゲイツ・ジュニア著、『シグニファイイング・モンキー—もの騙る猿／アフロ・アメリカン文学批評理論』南雲堂フェニックス、担当：「はじめに」「序章」、7-29頁。2009年
- ④小倉いずみ『英語文学事典』ミネルヴァ書房、総ページ829頁のうち13項目を担当2007年
- ⑤小倉いずみ『ピューリタニズムの生成と継承に関する研究』科学研究費基盤研究(B)による研究成果報告書。1-191, i-xi頁。2007年

〔その他〕上記雑誌論文③のwebページ  
[http://www2.daito.ac.jp/uploads/library/1226621583\\_D\\_B\\_08\\_05.pdf](http://www2.daito.ac.jp/uploads/library/1226621583_D_B_08_05.pdf)